

■ 構造計算適合性判定の円滑化のために、申請者(設計者)は下記の共通事項について、再確認をお願いします。

OKBC 判定用 チェックリスト (申請書に添付要)

2015.10.13

一般財団法人 大阪建築防災センター

共通事項	確認済の場合は □ にチェック印(レ又は■)を入れて下さい。	連絡事項など
1 構造計算適合性判定申請書類・図書	<input type="checkbox"/> <b>構造計算適合性判定申請書一面～三面、建築計画概要書</b> (第3号様式)、 <b>委任状</b> 、建築主事等による留意事項 規則第1条の3による <b>意匠図</b> (付近見取り図・配置図・各階平面 図・床面積求積図・仕上表・2面以上の立面図・2面以上の断面 図・地盤面算定表)、 <b>構造図</b> (基礎伏図・各階床伏図・2面以上 の軸組図・構造詳細図・部材表・使用構造材料一覧表・基礎地 盤説明書・施工方法等計画書)、 <b>構造計算書一式</b>	申請図書は正副各1部です。
2 電算出力関係	<input type="checkbox"/> 電算出力等の縮小印刷(2頁を1枚に印刷)、または、文字の重なり等により判読できない出力は避けている。 <input type="checkbox"/> 電算出力の通り符号、部材符号は、原則として構造図と合わせている。	
3 計算書の作成ほか	<input type="checkbox"/> 構造計算書および追加説明書の冒頭には、計算書全体の構成(設計内容がわかる小項目を含む)がわかる目次を添付している。 <input type="checkbox"/> 構造上の特徴、構造計算方針等は、可能な限り構造計算書の冒頭部分に添付している。	
4 追加説明書の作成	<input type="checkbox"/> 確認申請書類の構造計算書(電算出力)と追加説明書の電算出力は、出力形式を一致させている。 <input type="checkbox"/> 追加説明書の回答一覧は、追加説明を求める書類と一緒に送付したエクセルシート等を活用し、回答欄には、検討内容や修正事項、参照ページ等を記載している。また、設計図の修正箇所には、マーキングを行っている。	追加説明書の作成時をお願いします。
5 整合性の確認	<input type="checkbox"/> 意匠図、設備図と構造図の整合性は確認済である。 <input type="checkbox"/> 構造図と構造計算書の整合性は確認済である。	適合性判定は構造図を正として審査します。 適合性判定は構造計算書を正として審査します。 抜取りで重大な不整合(階高、スパン、モデル化、大幅な荷重変更等)があれば、審査を打ち切ることがあります。修正図書の再提出により、審査を再開することになります。
6 梁貫通孔補強	<input type="checkbox"/> 構造図、補強計算書共添付している。 <input type="checkbox"/> 構造図、補強計算書共添付していない。 <input type="checkbox"/> 梁貫通孔はなし。	適合性判定の対象とします。 既製品を用いる場合は、構造図として標準図等添付(計算書は決定後に提出することを記載)のうえ、後日、確認機関で審査を受けてください。(在来補強も同じです)
7 告示1458号による屋根ふき材の検討	<input type="checkbox"/> 屋根ふき材の計算書は添付している。 <input type="checkbox"/> 屋根ふき材の計算書は添付していない。 <input type="checkbox"/> RC造であり該当しない。	適合性判定の対象とします。 後日、確認機関で審査を受けてください。
8 告示1458号による外装材・ガラスの検討	<input type="checkbox"/> 外装材、ガラスの計算書は添付している。 <input type="checkbox"/> 外装材、ガラスの計算書は添付していない。 <input type="checkbox"/> 高さ13.0m以下であり該当しない。	適合性判定の対象とします。 後日、確認機関で審査を受けてください。
9 杭の施工偏心検討	<input type="checkbox"/> 杭の施工偏心は考慮していない。 <input type="checkbox"/> 杭の施工偏心を考慮した計算のみを行っている。 <input type="checkbox"/> 杭打ち基礎ではない。	杭打設後の実測結果により確認機関と協議してください。 構造図の正規の杭位置での検討が必要です。実測結果により、検討内容と異なる偏心を生じた場合には、審査機関と協議してください。
10 その他 各部材の納まり等	<input type="checkbox"/> S造柱梁接合部で、通しダイアフラム間隔は適切に確保されている。 <input type="checkbox"/> S造柱梁接合部で、通しダイアフラム厚さは梁フランジ厚の2サイズアップ以上である。 <input type="checkbox"/> S造角形鋼管柱梁接合部で、内ダイアフラム部に付く梁は、コーナーアル部を避けた接合としている。 <input type="checkbox"/> RC造梁(S造の基礎梁を含む)で、1段に並ぶ主筋本数に問題はない。(特に柱の外面と同一面に取付く場合) <input type="checkbox"/> RC造柱梁接合部で、主筋の被り、あき、水平投影定着長さ等は確保されている。(特に多段配筋の場合)	ウェブの隅肉溶接長は、40mm以上かつ隅肉サイズの10倍以上必要です。ダイアフラム間隔が100mm以下は要注意です。 「よくある質疑事項の解説」第1部 2.1.7を参照してください。 「よくある質疑事項の解説」第1部 2.1.6を参照してください。 「鉄筋コンクリート造配筋指針」P.5～6を参照してください。 「鉄筋コンクリート造配筋指針」P.34～を参照してください。